キャンプ製品を立ち上げ

精密板金の技術力活かす

㈱村春製作所
代表取締役 村上 稔幸さん

ぬれた傘を差し込むと一瞬で包装される。名づけて傘袋装着機「傘ぽん」。スーパーやデパート、飲食店…。雨の日になれば、店頭に置かれているのをよく目にします。開発したのは、緑区橋本台の村春製作所です。1991年の発売以降、現在までで累計10万台以上を販売しています。そんな同社は新たな挑戦として、キャンプ用品のブランド「SPRING VILLAGE（スプリング ヴィレッジ）」を立ち上げました。ペレットや薪（まき）を原料とし、持ち運べるロケットストーブのシリーズを展開。縦長で鍋やフライパンを乗せられる「小太郎（KOTARO）」や、横長で筒状のオーブンを内蔵した「ななかまど（nanakamado）」などをそろえています。

■精密板金で技術磨く

同社は創業以来、精密板金に力を注いでいます。ただ、村上稔幸社長は「精密板金という言葉自体がまだ世間に浸透しておらず、ピンとこない人も多くいます」と言います。同社では厚さ0・1から最大6ミリメートルまでの板材を精密に加工する技術を持っています。このうち、最も得意とするのが「板厚0・1から2ミリメートルまでの〝薄物〟と呼ばれる材料の加工分野」（村上社長）としています。

自社製品の開発にも熱心で、とりわけ「傘ぽん」の開発、製造元でもあります。もともとは村上社長の妻が通っていた病院の出入り口付近で、風にたなびく傘袋を見て不便そうだと思い、「風で傘袋が動かないようにするケースを作ればよいのではないか」とひらめいたのが開発のきっかけだそうです。その「傘ぽん」は、今や国内だけでなく海外にも広がりを見せています。

傘袋装着機・傘ぽん

■ロケットストーブ

最近では自社ブランドを立ち上げ、ロケットストーブの製造販売に乗り出しています。「2年ほど前から工場長が遊び感覚で作り始めたものですが、これが意外とおもしろいのではないかと商品化しました」と明かします。このストーブはコンパクトで持ち運びが可能で、内蔵のオーブンでピザや焼き芋を焼くこともできます。さらに「二次燃焼機能」を持っているため、煙が少なく効率的に燃焼できるといいます。二次燃焼とは、薪が燃えて出た一酸化炭素や未燃焼のガスを再度燃やしてしまう技術のことです。

同製品はキャンプ場で使っても煙がほとんど立たないため周囲に迷惑をかけにくく、しかも効率的に薪・ペレットを燃焼できるので燃料の消費量が抑えられます。まだ販売したばかりですが「昨今のキャンプブームに乗り販売を伸ばしていきたいです」と意気込んでいます。

ロケットストーブななかまど（nanakamado）

■「生活を便利にしたい」

今後について村上社長は「当社の強みである板金加工技術を生かし、人々の生活を便利にするような商品を作っていきたいと思います」と話します。現在、「ロボットスーツ」のような製品も考えているそうで、自身が作業中に腰を痛めた経験があるため、そういった分野にも挑戦してみたいとの思いがあります。これからも技術を使い、人々の生活をよりよくするようなモノづくりを続けていく考えです。